

# GENETIX CRIME UNIT



© Greenpeace/Hardouin

## モンサント社、真実の姿

遺伝子組み換え (GM) 種子の90%は、米国の大手農業化学企業・モンサント社(本社: ミズーリ州セントルイス)が開発し、所有している。モンサント社は、遺伝子組み換えがいつ私たちの食物に入りこむかを公表したがない。世界の多くの消費者が遺伝子組み換えの食物と作物に反対している。それは、遺伝子組み換え技術が健康へのリスク、生物多様性の喪失、有毒な除草剤使用の増加、その他の環境問題と切り離しては考えられないものだからだ<sup>1</sup>。

## 遺伝子組み換え食品および作物を世界に強要しようとするモンサント社の奮闘

モンサント社は、世界の農業と食糧生産をひとつの大きな遺伝子実験装置にしようとしている。しかし、いまのところその計画は成功していない。現在まで遺伝子組み換え作物を栽培する農家は世界のたった1%にすぎない。このうちの85%が米国、アルゼンチン、カナダの3カ国に集中し、商業規模の栽培は4種類の遺伝子組み換え作物(トウモロコシ・ダイズ・ナタネ・コットン)にとどまっている。

世界のほとんどすべての地域(ヨーロッパ、ロシア、アフリカ、中南米やアジア諸国など)では、大手食品企業や小売業者が遺伝子組み換え食品の販売を拒否し、多くの政府が遺伝子組み換え作物の栽培や輸入を禁止している。

こうした批判に対し、モンサント社は企業イメージのグリーン(環境保全に貢献する企業)化に躍起だ。「よりよい世界への成長」と題した2007年の同社の年次報告書は、同社が慈善団体になったかのように書かれている。しかしこれは見せかけにすぎない。モンサント社は終始一貫して利益追求を目的としている。世界中の農家を、同社が特許を持つ種子や除草剤や農業に依存させるのが、同社の戦略だ。これからご紹介する記録は、モンサント社が市場支配という目的達成のためなら、持続可能な農業、環境問題、農家の暮らし、そして消費者の利益など、なんの躊躇もなく踏みこむ事実を示している。

<sup>1</sup> <http://www.greenpeace.org/international/press/reports/genetic-engineering-exposed>

# モンサント社7つの大罪

モンサント社は、遺伝子組み換え技術の危険性と収益可能性に関する事実を、農家や消費者に対し組織的に隠蔽している。このレポートでは、モンサント社がウェブサイト上で発表している世界への“誓約”（同社のウェブサイトから引用）のひとつひとつを検証し、その誓約がいかに反故にされているかを明らかにしていく<sup>2</sup>。

## ■モンサント社の誓約 1

対話：社会のニーズに応え、問題解決を図るために、さまざまな意見に耳を傾けて対話することにより、視野を広げ、理解を深めていきます。

## ◆誓約違反の実例 1

モンサント社は自社に不都合な研究結果に耳を貸さない

2008年1月、モンサント社は他の農業化学企業2社とともに「開発のための農業科学技術国際評価（IAASTD）」から脱退した。IAASTDは、飢餓の削減と発展途上国の農村の生活改善のために組織された国連主導の政府間管理機構。各国政府や企業、世界の400人を超える専門家を集め、3年間にわたって科学・技術・農業の知識の評価を行う。モンサント社は、IAASTDの報告書が遺伝子組み換え作物を全面的に普及しようとしないうことを知り、同機構からの脱退を決定した。これによって、モンサント社は同社のビジネスプランに合わなければ、健全な科学にも興味を示さないことが明らかになった<sup>3</sup>。

## ◆誓約違反の実例 2

インドネシア：モンサント社の贈賄に有罪判決

2005年1月、モンサント社は、インドネシアでの栽培を目指していた遺伝子組み換えコットンの検査を免れるためインドネシア環境省に賄賂を贈ったとして、米国政府に罰金150万米ドルの支払いを命じられた<sup>4</sup>。

## ■モンサント社の誓約 2

透明性：情報の提供を保証し、それが入手しやすく、理解しやすいものであるよう心がけます。

## ◆誓約違反の実例 1

米国：消費者の知る権利を閉ざすモンサント社

米国の大手酪農業者や食品会社数社は、モンサント社の牛の遺伝子組み換え型成長ホルモン（rBGH, rBST）を自社製品の牛乳から排除し、「rBGH不使用」と「rBST不使用」との表示を行ってきた。消費者にとってこれは朗報だった。この遺伝子組み換えバクテリアから作られた成長ホルモンは、牛に害を及ぼし<sup>5</sup>、人間の健康にも悪影響を与えるおそれがあるからだ。しかし、モンサント社は米メイン州の酪農企業オークハースト社を相手どって訴訟を起こし、オークハースト社の酪農製品から「rBGH不使用」と「rBST不使用」の表示をはずすよう圧力をかけ、消費者の知る権利を閉ざそうとした<sup>6</sup>。

## ◆誓約違反の実例 2

ドイツ：法廷審問からのみ得られるモンサント社の情報

2005年6月、ドイツ裁判所はモンサント社に対し、遺伝子組み換えトウモロコシ（MON863）に関連するラットの飼育実験の未発表報告書を公開するよう命じた。この判決は、グリーンピースがEU法にもとづき文書の公開を求めたことを受けて下されたもの。モンサント社はこの1,000ページにおよぶ報告書の発表を一貫して回避していた。ついに文書が公開されると、モンサント社が実験結果を隠そうとした理由が明らかになった。この飼育実験を行った独立した科学者たちが、MON863を与えたラットの肝臓と腎臓が“毒性兆候”を示したとの結論を出していたのである<sup>7</sup>。



遺伝子組み換えダイズに農薬を散布する様子（アルゼンチン）  
© Greenpeace/Gilabert



© Greenpeace/Novis

<sup>2</sup> [http://monsanto.com/pdf/pubs/2007/pledge\\_report.pdf](http://monsanto.com/pdf/pubs/2007/pledge_report.pdf)

<sup>3</sup> "Deserting the hungry?" Nature 17 Jan. 2008

<sup>4</sup> Birchall, Jonathan. Financial Times 6 Jan. 2005

<sup>5</sup> Dohoo, I., Leslie, K., Descoteaux, L. Shewfelt, W. "A meta-analysis of the effects of recombinant bovine somatotropin 1 and 2." Canadian Journal of Veterinary Research 67: (2003) 241-251 and 252-264.

<sup>6</sup> <http://www.gene.ch/genet/2003/Jul/msg00073.html>

<sup>7</sup> [http://www.greenpeace.org/international/press/releases/seralini\\_study\\_MON863](http://www.greenpeace.org/international/press/releases/seralini_study_MON863)



## ■モンサント社の誓約 3

共有：科学の発展や理解の促進、農業と環境の向上、作物の改良、開発途上国の小規模生産者を支援するために、知識と技術を共有します。

### ◆誓約違反の実例 1

「私たちの国の貧困や飢餓といったイメージが、巨大多国籍企業の、安全でもなく、環境にも配慮せず、経済的利益をももたらさない技術の推進のために利用されることに、私たちは強く反対します」

— 国連食糧農業機関(FAO)の植物遺伝資源に関する会議に出席したアフリカ20カ国の代表団による声明<sup>8</sup>

インドの経済学者でありノーベル賞受賞者でもあるアマルティア・セン氏のような人々が指摘するように、飢饉は食糧供給力の問題ではなく、食糧分配の問題であり、土地や水を利用する権利や、収入への道が閉ざされていることに起因する。これらの問題は、遺伝子組み換え種子の導入では解決されない。反対に、遺伝子組み換え作物は飢えと小規模農家の負債をさらに悪化させる。なぜなら、それは高価な種子と大量の肥料や殺虫剤への莫大な投資を必要とするからだ。



© Greenpeace/Ritsema

## ■モンサント社の誓約 4

貢献：革新的な科学技術、その効果的な利用、そしてあらゆる面で安全と健康に配慮することを通じ、顧客と環境に利益をもたらす高品質の製品を提供します。

### ◆誓約違反の実例 1

インド：遺伝子組み換えコットン、農業者を裏切る

モンサント社のインド子会社、マヒコ・モンサント社(Mahyco-Monsanto)は、2003年から殺虫性遺伝子組み換えコットン(Btコットン)の普及を行ってきた。モンサント社はBtコットンが害虫を減らし、収穫を高め、農家の収入を増やすと主張する。しかし、この主張は実証されなかった。Btコットンは害虫を抑制ができなかったのである<sup>9</sup>。

インド最大のコットン生産州の一つ、アンドラ・プラデッシュ州の農業者組織の連合団体は、「Btコットンは農薬を減らし生産費用を削減すると、モンサント社は大げさに宣伝していたが、この約束はまったく果たされなかった。実際には、コットン農家だけでなく、すべての農家の栽培費用をも増加させた」との声明を発表した<sup>10</sup>。

こうした明らかな失敗にもかかわらず、モンサント社はこの作物の失敗を認めず、農家への補償を申し出ることもしなかった。それどころか、次期シーズンに向けてBtコットンの販売促進を強化した<sup>11</sup>。

### ◆誓約違反の実例 2

フィリピン：農家に高価すぎる遺伝子組み換えトウモロコシの価格

フィリピンのミンダナオ島ナウハン自治区で小規模農業を営むトーマス・ダチングイヌー氏は、2004年にモンサント社からの「収穫増を保証する」という約束を信じて、遺伝子組み換えトウモロコシ(Btトウモロコシ)の栽培を決めた。しかし同氏は、種子が高額であることや農薬使用が増加したことで、Btトウモロコシにかかる費用が利益のすべてを失わせるほど高いことに気づいた。ダチングイヌー氏は、「最初にBtトウモロコシを栽培したときは収穫量が良かったが、莫大な経費がかかるため利益はまったくなかった。私はモンサント社の種にとても失望し、今後二度と栽培するつもりはない<sup>12</sup>」と語っている。

## ■モンサント社の誓約 5

尊重：世界中の人々の、宗教的・文化的・倫理的な懸念に対して敬意を払います。また、高い倫理性と勇気、敬意、誠実さ、正直さ、謙虚さ、一貫性をもって行動します。従業員や事業展開の基盤となる地域社会、顧客、消費者、環境の安全確保を最優先課題とします。

### ◆誓約違反の実例 1

フランス、南アフリカ：モンサント社の安全性への虚偽主張を糾弾

2007年1月、フランスの法廷は、除草剤ラウンドアップが「生物分解可能」毒素であるという虚偽の主張を行ったとして、モンサント社に有罪判決を下した。ラウンドアップは同社のベストセラー除草剤で、遺伝子組み換え作物に大量に散布され、地球環境や人間の健康に悪影響を与えることでも知られている。判決後、モンサント社はフランスで販売されるラウンドアップの容器から「生物分解可能」という表示の削除を余儀なくされた<sup>13</sup>。判決から数カ月後、南アフリカのASA(広告規制局)はモンサント社に対し、『遺伝子組み換え食物にたいする科学的、医学的な副作用は一切報告されていない』と主張する虚偽広告の撤回を通告した<sup>14</sup>。

<sup>8</sup> [www.cabinetoffice.gov.uk/upload/assets/www.cabinetoffice.gov.uk/strategy/gaiafoundation2.pdf](http://www.cabinetoffice.gov.uk/upload/assets/www.cabinetoffice.gov.uk/strategy/gaiafoundation2.pdf)

<sup>9</sup> Kranthi, K.R., Naidu, S., Dhawad, C.S., et al. "Temporal and intra-plant variability of CryIAc expression in Bt-cotton and its influence on the survival of the cotton bollworm, *Helicoverpa armigera* (Hubner) (Noctuidae: Lepidoptera)" *Current Science* 89:(2005) 291-298.

<sup>10</sup> [http://www.grain.org/research\\_files/BT\\_Cotton\\_-\\_A\\_three\\_year\\_report.pdf](http://www.grain.org/research_files/BT_Cotton_-_A_three_year_report.pdf)

<sup>11</sup> [www.contaminationregister.org](http://www.contaminationregister.org)

<sup>12</sup> See for more cases: updated version of the report: "Bt corn, whose interest does it really serve!" To be provided by Danny Ocampo

<sup>13</sup> Agence France Presse, 26 Jan. 2007. <http://www.asasa.org.za/ResultDetail.aspx?Ruling=3719>

## ■モンサント社の誓約 6

成果を達成するオーナーとしての行動：私たちは、社の方針、役割、説明責任を透明なものとし、消費者および外部パートナーと強い絆を構築します。賢明な決定を下し、自社の資源を管理し、合意した成果の達成に責任をもちます。

### ◆誓約違反の実例 1

アメリカ：敵対するモンサント社と農家

食品安全センター（CFS）の2007年報告書<sup>15</sup>には、米国の農家を相手取ったモンサント社の訴訟が記録されており、数1000件もの捜査や、100件近い訴訟、そして多数の農家が破産の事実を明らかにしている。

論争中：モンサント社は同社が開発した遺伝子組み換え種子の所有権を有し、その種子から生まれる種もモンサント社の所有である。このため、農家は収穫後、種子を保存し、それを次の収穫にそなえて植える（これまでの慣行）ことに対して、モンサント社から訴えられることになり、モンサント社の遺伝子組み換え作物が農家の畑を汚染しても訴えられるのである。

CFSは広範囲にわたる調査と農家や弁護士への聞き取りによって、モンサント社がこれまで手荒な取調べや非情な告訴を繰り返し、これが米国の農業のあり方を根本的に変えてしまったことをつきとめた。農家を相手どってモンサント社が勝訴したこれまでの裁判の中で、同社が受け取った賠償金の最高額は305万2800米ドル（約3億1,000万円）。これまでの裁判でモンサント社に与えられた賠償金総額は1,525万3,602.82米ドル（15億7,000万円）にのぼり、農家は訴訟ごとに平均41万2259.54米ドル（4,300万円）を支払ったことになる<sup>16</sup>。

モンサント社が遺伝子組み換え種子の特許を保持しているため、訴えられると農家は弁明のしようがない。農家は、これまでの慣習であった種を守ることで訴えられ、苦しめられるという新しい時代が到来したのである。モンサント社の仕掛ける網から逃れられる農家はない。CFSの報告は、他の農家が栽培していた遺伝子組み換え作物の花粉や種子が飛散して汚染されたり、遺伝子組み換えでない作物を植えた畑に、前年の農作物から遺伝子組み換え種が発芽しない“自生”したりしたことで、モンサント社から訴えられた農家があることも伝えている。

## ■モンサント社の誓約 7

最高の職場環境の創出：私たちは、人と考え方の多様性を保証し、新しい考え方、創造性、そして学ぶことを促進し、総合的なチームワークを実践します。また社員の功労に報い、適切な評価を行います。

### ◆誓約違反の実例 1

ルーマニア：モンサント社の元職員の証言

「私が会社を辞めたのは、ルーマニアでの遺伝子組み換え技術導入に懸念を表明したからです。私は、ルーマニア政府もモンサント社も遺伝子組み換え技術を監視し制御する用意がないし、できないと思ったのです」<sup>17</sup>。ルーマニアのモンサント社を1998年に辞めた前事業部長、ドラゴス・ディマ氏の証言。

## 結審

生物の多様性と環境の保護に反する罪、農家が遺伝子組み換えでない作物と食物を栽培する権利の侵害、そして消費者が遺伝子組み換えでない食品を食べる権利を侵害した罪において、モンサント社を有罪とする。

## 判決

遺伝子組み換え作物の栽培をただちに停止し、持続性と生物多様性の保護の原則と、すべての人々に安全で安心な食品へのアクセスを提供するという原則にもとづき、遺伝子組み換えでない作物や食品の生産に全力を注ぐこと。

<sup>15</sup> <http://www.centerforfoodsafety.org/Monsantovsusfarmersreport.cfm>

<sup>16</sup> 1\$ = 103円 (2008年5月12日現在)

<sup>17</sup> <http://www.greenpeace.org/international/news/gmo-lamy>



© Greenpeace/Ampugnani



© Greenpeace/Paun